

## 福井ふるさと学びの森 安全活動講習会兼情報交換会 ～福井ふるさと学びの森ネットワーク大会 2019～

- 1 日 時：令和元年11月27日（水）10：00～16：00
- 2 場 所：福井市上味見生涯教育施設、福井市伊自良館分館 他  
（福井市中手町）
- 3 参加者：10団体16名
- 4 講 師：NPO法人自然体験共学センター 細川和朗氏、堀井慎太郎氏
- 5 開催概要：

### 【福井市上味見生涯教育施設／10:00～11:30】

#### （1）開会

- ・開会あいさつ（副所長）
- ・スケジュール確認（事務局）



#### （2）自己紹介、フィールドワーク

- ・アイスブレイク。数班に分かれて、出身地や活動内容など、テーマに沿って自己紹介をした。十分に交流時間をとることで、和やかな雰囲気となった。
- ・自然体験共学センターの活動フィールドの紹介。以前は、すべて野外でキャンプを実施していたことなどを説明した。
- ・フィールドを散策しながら、いろいろな種類の葉を集め、大きさや手触り、香り等、五感を使って葉の種類を比べた。また、散策中に見つけた植物について、参加者同士で意見交換を行っていた。



### 【福井市伊自良館分館／11:40～13:10】

#### （3）情報交換会

- ・（一社）伊自良の里振興協会の伊藤弘晃氏から、「伊自良・癒やしの郷づくり構想」を中心とした、上味見地区の振興についての講義があった。参加者からは、参加者の地元の施策と比較や、施策の具体的な内容について、多くの質問があった。
- ・昼食は、今年の8月にオープンした農家レストラン、「やきはた食堂」のお弁当を堪能した。調理を担当している上味みママーズの方から、地元の郷土料理や食材についてなど、「食」への思いをお聞きした。



【福井市伊自良館分館／13:20～16:00】

(4) 座学講習

「自然体験プログラム作成・運営のコツ」、「活動資金の確保について」をテーマとして、双方のテーマに共通する「活動の魅力を知ってもらう、あるいは感じてもらうための伝え方や届け方」を参加者全員で考えることとした。

① 団体の活動紹介

・各団体の代表者が、年間を通してどのようなイベントを実施しているか、団体ならではの工夫や課題について紹介した。



② 事例発表

・自然体験共学センターの細川氏、堀井氏から、初めての方にイベントに来てもらうための「入口」と、また来たいと思ってもらうための「リマインド」の手法について発表した。



・細川氏の企画するイベントでは、紙媒体による効果が一番高く、「入口」はチラシを多くの学校に配布することであり、「リマインド」は参加者の直筆記録が掲載された活動報告書を作成し届けることである。堀井氏は、口コミやSNSにより参加者を募っており、「入口」も「リマインド」もSNSを活用しているとのことであった。

③ ワークショップ

・グループに分かれて、それぞれの団体における「入口」と「リマインド」の手法についての情報共有を行い、効果的な手法についてまとめた。



・「口コミ」が一番大事だと考えるグループは、その地域の食べ物など、イベントを後で思い出せるようなものを必ずイベント内容に入れる、帰りに次の告知チラシを渡すなど、個人同士の付き合いを大事にする手法を発表した。一方、あらゆる広報手段を利用することが大事だと考えるグループからは、ホームページの閲覧状況を分析ツールで分析することで広報先を絞り込むなど、先進的な手法の紹介があった。

・参加者からは、団体それぞれで広報の仕方が違い、大変参考になった、自分の団体では紙媒体での広報が重要であると改めて認識した、などの意見があった。

(5) 閉会 (16:00)